

令和4年度

町政執行方針

幕別町長 飯田 晴義



令和4年度 町政執行方針

I	はじめに	1
II	町政に臨む基本姿勢	1
III	新年度予算概要	2
IV	主要施策の展開	
1	協働と交流で住まいる	3
2	特色ある産業で住まいる	4
3	人がいきいき住まいる	6
4	豊かな学びと文化、スポーツで住まいる	8
5	自然との調和で快適な住まいる	8
V	むすび	10

I はじめに

令和4年第1回町議会定例会が開会されるに当たり、町政執行についての所信を申し上げ、議員の皆さん並びに町民の皆さんにご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成31年5月に町民のみなさんからの付託を受け、町長として二期目の町政の舵取りを担わせていただいてから早いもので3年が経過しようとしており、今年度は、任期の締めくくりの年となります。

一昨年来、私たちの暮らしや経済・社会のあり方に大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症は、今年に入ってからオミクロン株の広がりによる感染の急拡大により、いまだ終息の兆しが見えない状況であります。こうした中、さきほど行政報告でも申し上げましたが、北京2022オリンピック競技大会での高木菜那さん、美帆さんお二人のご活躍は、町民に誇りと勇気、そして感動を与えていただきました。

任期最終年を迎える今、私も、お二人の懸命な姿を拝見し、残された任期、初心に立ち返り、持てる力の全てを注ぎ、本町の持続的な発展に向け、全力でこの職責を果たしてまいります。

II 町政に臨む基本姿勢

はじめに、まちづくりに臨む私の基本姿勢について申し上げます。

平成27年に町長に就任して以来、「住民と対話を重ね、その思いを共有し、一緒に実現する」を私の政治姿勢とし、人口減少対策、産業振興・経済の活性化といった町政運営に当たっての重点課題に対し、常に町民が主役のまちづくりの推進を念頭に、活力ある経済、安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、町民のみなさんの声に真摯に耳を傾け、町政を進めてまいりました。

特に、人口減少対策については、本町は若年層が少なく高齢層が多い人口構造で、近隣の自治体と比較して少子高齢化が顕著であることから、今こそこの課題に取り組み、

若年層に住んでもらうことで永続的なまちづくりにつなげたいという思いのもと、「子育て支援策」及び「定住対策」を対策の二本柱とし、子ども医療費の無料化や保育所、幼稚園及び小中学校におけるエアコン整備、マイホーム応援事業のほか、防災行政無線や町内全域への光回線整備など各種施策を推進してきたところであります。

このことから、就任以降、全国的に進む人口減少下においても、本町では子育て世帯の人口が転入超過により社会増となっているなど、人口減少対策の効果が現れはじめているものと実感しているところであり、未来へつながる持続可能なまちづくりに向けた歩みを、前に進めることができたものと考えております。

今後におきましても、残された任期において、様々な課題に真摯に向き合い、より一層、現場の声、一人ひとりの町民の皆さんの声を大切にしながら、本町が「住んでみたい」、「住み続けたい」、「住んでよかった」と思ってもらえるまちとなるよう、引き続き町政の推進に全力を傾注してまいります。

Ⅲ 新年度予算概要

次に、新年度予算の概要について申し上げます。

コロナ禍にあって、感染防止対策及び経済対策を継続的、効果的に実施していくことが当面の最重要課題でありますことから、新年度の予算は、補正予算による繰越事業も含め15か月間の予算とする考えのもと、編成したところであります。

一般会計予算の総額は、159億7,368万2千円で、前年度と比較して、3億9,131万4千円、2.4%の減に、また、国民健康保険特別会計など7特別会計と水道事業会計を合わせた8会計では、総額90億8,677万3千円で、前年度と比較して、1億7,311万5千円、1.9%の増となっております。

次に、一般会計の歳出について申し上げます。

投資的経費は、総額約20億5,000万円で、前年度と比較いたしますと、札内青葉保育園建設費補助事業の減及び公営住宅建設事業において、桂町西団地が整備完了に

伴い減となったほか、あかしや南団地については、令和3年度の繰越事業として実施することなどから、23.5%の減となっております。

また、非投資的経費は、扶助費や補助費等の増嵩により、総額約139億円、1.8%の増となっております。

次に、歳入についてであります。町税は、新型コロナウイルス感染症に係る固定資産税の減免措置の終了等に伴い前年度比1.6%の増を、また、普通交付税については、国の地方財政対策の内容を踏まえ、前年度比2.9%の増で計上したところであります。

基金繰入金につきましては、財政調整基金から3億円、減債基金から5,000万円、まちづくり基金から約1億6,500万円、森林環境譲与税基金から約1,400万円、総額約5億2,900万円を計上したところであります。

また、町債につきましては、普通建設事業債10億6,990万円、臨時財政対策債2億4,000万円、過疎債のソフト事業分3,100万円と、総額では前年度に比べ5億4,330万円、28.8%の減となりました。

以上、新年度予算の概要について申し上げましたが、厳しい財政状況の下、事業の緊急性や優先度などを総合的に勘案し、最小の経費で最大の効果をあげるべく、住民福祉の向上を基本に魅力あるまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

IV 主要施策の展開

次に、本年度の主要施策の展開につきまして、「第6期幕別町総合計画」に掲げる五つの基本目標に沿ってご説明申し上げます。

1 協働と交流で住まいる

基本目標の一つ目、「協働と交流で住まいる」についてであります。

活力ある住みよいまちづくりを進めるため、町民の皆さんとの対話を積み重ねながら、

協働のまちづくりを推進していくとともに、行政区の在り方については、公区長の皆さんへの聞き取り調査の結果などを踏まえ、更に各種団体との意見交換を実施した上で、今後の方向性について新年度の早い段階で結論を見出してまいります。

定住施策のマイホーム応援事業につきましては、これまでの実績などから既存住宅の解体撤去に対する加算を廃止するとともに、本町における住宅建設用地が不足していることなどから、中古住宅の購入費用に対する支援を強化するため、その購入に対する補助基準額を引き上げ、定住施策を推進してまいります。

2 特色ある産業で住まいる

次に、基本目標の二つ目、「特色ある産業で住まいる」についてであります。

本町の基幹産業である農業を取り巻く情勢は、高齢化や担い手不足、新型コロナウイルス感染症の影響による輸入飼料の高騰や牛乳乳製品の消費低迷など、依然として先行きが不透明な状況にあります。

このため、本町農業の足腰を強化するため、農業基盤整備と土づくりを農業振興の柱に据え、「ふるさと土づくり推進事業」を継続して実施するとともに、良質な自給飼料を確保するため「公社営草地整備事業」に新たに取り組むなど、生産基盤の強化と農業経営の安定化を推進してまいります。

また、まくべつ農村アカデミーやグリーンパートナー対策事業の充実、各種補助事業の活用により、地域農業を担う後継者等の育成・確保を図るとともに、農業経営基盤強化促進事業や農地中間管理機構事業を効果的に活用し、担い手への農地の集約・集積化を推進してまいります。

有害鳥獣対策につきましては、「幕別町鳥獣被害防止計画」に基づき、行政、農業関係団体、猟友会など地域が一体となった捕獲体制の下、有害鳥獣の個体数減少と農業被害の軽減に努めてまいります。

土地改良事業では、国営事業として、令和3年度から着手した新川二期地区上統内排水機場更新事業について、令和9年度完了を目指し事業が実施され、道営事業では、水

利施設等保全高度化事業等を計画的に推進するとともに、団体営事業においては、忠類地区第一幹線明渠排水路の機能保全計画の策定に着手するなど、農業基盤整備による生産の安定化と効率化を図ってまいります。

林業の振興では、森林環境譲与税を活用した「森林整備環境促進事業」に取り組むなど、森林整備やその促進につながる取組を計画的かつ効果的に推進してまいります。

商工業の振興につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に食い止めるため、常に感染状況や景気動向、町内事業者の現状を見極めつつ、適宜経済対策を講じるとともに、地域内での経済循環向上に向けた取組について関係機関とともに進めてまいります。

また、中小企業・小規模事業者の円滑な事業継承を推進すべく、商工会、町内金融機関、行政が一体となり、支援策等を検討するための会議を立ち上げ、後継者の確保と持続的な商工業の振興を図るとともに、企業研修型地域おこし協力隊を活用し、新たな発想のもと、商工業の活性化に繋げてまいります。

雇用対策では、リバーサイド幕別工業団地や札内東工業団地での企業誘致による雇用の創出に努めるほか、「幕別町お仕事紹介所」の取組を強化させ、若者や障がい者等、全ての町民が安心して働くことができる就業環境づくりを進めるとともに、少子高齢化や人口減少に伴い後継者が確保できない企業に対する支援の在り方について検討を進めてまいります。

観光物産振興につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の観光情勢が一変したことから、ポストコロナを見据えた観光物産振興を図るべく、地域おこし協力隊の活用や十勝管内の広域連携を進めることにより、新たな発想を取り入れた商品開発や観光客の滞在促進のための観光コンテンツのさらなる向上に取り組んでまいります。

忠類地域におきましては、昨年度試験的に、道の駅忠類に観光案内所を10月から11月1週までの土日祝日に設置し、観光コンシェルジュとして地域の案内役を配置し、効果的な観光情報等が発信できましたことから、今年度本格的に、4月から10月頃ま

での土日祝日に開設することとし、体験型を中心とした観光資源やサイクルルートを含めた周遊ルート等のPRに努めるとともに、忠類地域魅力発信実行委員会はもちろんのこと、南十勝の町村とも連携し、誘客を図ってまいります。

また、アルコ236につきましては、今年度から5年間、新たな指定管理者による指定期間が開始されるのに合わせ、新たな料金体系を導入し、これまで以上のサービス提供を図るべく、宿泊料など使用料の見直しを行うとともに、町民利用の優遇策を拡大し、更なる利用促進に繋げてまいります。

3 人がいきいき住まいる

次に、基本目標の三つ目、「人がいきいき住まいる」についてであります。

「すべての町民が支えあい、子どもの豊かな心と生きる力を育むまち」を基本理念とした「第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子どもの健やかな育ちを社会全体で支援する環境づくりを推進し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援に努めてまいります。

特に、保育における質と量の拡充については、本年1月に新園舎が完成した私立の札内青葉保育園において、4月からの入所定員が90名から120名に拡大されるほか、3歳未満の児童を対象とした定員5名の家庭的保育事業所1か所が新たに4月から開所され、待機児童の緩和・解消と、多様な保育による子育て支援の拡充に繋がることから、引き続き民間における保育事業に対する支援に努めてまいります。

次に、明るい長寿社会の実現につきましては、「幕別町高齢者保健福祉ビジョン2021」に基づき、高齢者の方々ができる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう地域包括ケアシステムのさらなる推進に努めてまいります。

高齢化の進展により、医療と介護の両方を必要とする高齢者が増加し、高齢者に関わる医師や薬剤師などの医療関係者とケアマネジャーや訪問サービスなどの介護関係者間の連携が重要となっていることから、本年度、ICTツールを活用した情報共有システムを導入し、関係者間の情報共有をよりスムーズに行なうことで、必要なサービスを

切れ目なく提供できる多職種連携体制の充実に努めてまいります。

障がい者福祉の推進につきましては、「まくべつ障がい者福祉プラン2021」の基本理念である「自立・社会参加・共生」の実現を目指し、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう各種施策の推進に努めてまいります。

発達支援センターにおいては、個別に行っていた「ペアレントトレーニング」を、本年度から小集団での実施にも取り組むほか、未満児療育メニューに親子療育を新たに加えるなど、子どもへの関わり方への不安や困り感を抱えている保護者への支援の充実に努めてまいります。

地域における福祉活動の推進につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなど生活に困窮している方が安定した日常生活や社会生活を営むことができるよう、相談窓口の周知を行うとともに、とちぎ生活あんしんセンターや幕別町社会福祉協議会など関係機関と連携して支援につなげてまいります。

また、昨年度から事業を開始した「ひきこもりサポート事業」について一層の周知を図り、安心して参加できる居場所づくりや職場体験の実施などひきこもり等で悩んでいる当事者やその家族の支援に取り組んでまいります。

町民一人ひとりの健康づくりにつきましては、新型コロナウイルス感染症により、特定健診やがん検診等の受診控えとならないよう、健診の必要性について周知を図るとともに、安心して受診していただけるよう、健診会場の感染対策を徹底し、受診率の向上に努めてまいります。

また、食事や運動などの生活習慣を見直すきっかけとなるよう「2か月ダイエットチャレンジ」や「ウォーキング教室」などの健康づくり教室を実施し、町民の健康の保持増進、健康寿命の延伸に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対策としましては、マスクの着用、手洗いの徹底、三密の回避、こまめな換気など基本的な感染対策の実践について周知に努めるとともに、新型コロナワクチンの3回目の接種については、できる限り前倒しし、早期に接種を終えることができるよう取り組んでまいります。

消防体制の充実強化につきましては、糠内地区に配備しております水槽付消防ポンプ自動車を更新するほか、複雑多様化する災害への対応力強化のため、消防団員の確保及び質の向上を図ってまいります。

防災対策につきましては、近年の気候変動などに伴う大規模水害や海溝型の巨大地震災害に備え、一人ひとりが状況にあわせて適切な避難行動がとれるよう、出前講座やマイタイムラインの作成講習などを通し防災意識の向上に努め、さらには共助による防災力として、地域の実情に合った防災訓練の実施に向けた支援を行うなど、自主防災組織の機能強化と組織率の向上に努めてまいります。

また、子供たちの防災教育の充実を図るため、町内小中学校4校で一日防災学校を実施し、ソフト面での防災・減災対策の強化を進めてまいります。

4 豊かな学びと文化、スポーツで住まいる

次に、基本目標の四つ目、「豊かな学びと文化、スポーツで住まいる」についてであります。

社会を取り巻く環境が大きく変化する中、次代を担う子どもたちには、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むことが求められており、自ら考え行動ができ、他者に協力して助け合いながら、「生きる力」を身に付けることが重要であります。

このため、学校・家庭・地域が相互に連携し、社会全体で子どもを育むとともに、誰もが学び、豊かな感性を育てることができる教育の充実を目指し、総合教育会議を中心に教育委員会との連携を図りながら重点的な施策等について、協議・調整を進めてまいります。

このほか、教育関係の具体的な施策の推進につきましては、教育長から申し上げます。

5 自然との調和で快適な住まいる

次に、基本目標の五つ目、「自然との調和で快適な住まいる」についてであります。

国においては、2030年度に温室効果ガスを2013年度対比46%削減、さらに

は、2050年度には100%削減する脱炭素社会の実現を目指すとしており、この非常に高い削減目標に向かって私達は何をすべきかを真剣に考え、行動することが必要であります。

このことから、本町としては、本年度を「ゼロカーボン元年」と位置付け、町をあげてゼロカーボンに向けた取組をスタートさせていきたいと考えております。

本年度は、温室効果ガスの削減に向けての実態把握や再生可能エネルギーの活用に向けての課題の洗い出し等を行い、脱炭素に向けてのシナリオ作成と必要な施策の検討を行ってまいります。

また、有識者や町内の各産業団体関係者、さらには公募により町民の参加をいただき、「幕別町地球温暖化対策推進委員会」を組織し、ゼロカーボン実現に向けた総合的な地方公共団体実行計画の策定と当該実行計画に基づく地球温暖化対策の推進管理について議論をいただくなど、カーボンニュートラル社会実現に向けて、あらゆる取組を加速させてまいります。

次に、道路につきましては、主要道道である幕別帯広芽室線及び豊頃糠内芽室線等の道路整備について、計画的に事業の推進が図られるよう要請するとともに、町道の整備につきましては、緊急性や投資効果、地域バランスなどを考慮しつつ、幕別地域において東1条2条仲通など12路線、忠類地域において忠類24号線など2路線の整備を行ってまいります。

また、道東自動車道の音更・帯広インターチェンジから池田インターチェンジ間での(仮称)長流枝スマートインターチェンジの早期完成やスマートインターチェンジから町道幕別札内線に至るまでのアクセス道路の整備について、音更町と協力しながら関係機関への要請を行ってまいります。

公営住宅につきましては、「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、整備に努めてまいります。あかしや南団地の建替え事業については、前段申し上げましたように、令和3年度の繰越事業として実施し、既存住宅2棟40戸の解体と新たに2棟16戸の建設を行います。

公園整備につきましては、公園施設長寿命化計画に基づき、公園遊具等の計画的な改築更新を進めているところであり、本年度は若草南公園の遊具の更新を行うほか、明野ヶ丘公園につきましては、昨年に引き続きワークショップを開催し、町民のご意見を伺いながら、再整備に向けての施設の在り方や配置計画などについて検討し、基本設計を進めてまいります。

重要なライフラインである水道につきましては、配水管の整備や更新のほか、道営営農用水事業による駒畠簡易水道の更新事業の実施など、水道施設の強靱化を図り、安全安心な水の安定供給に取り組んでまいります。

下水道事業につきましては、効率的な汚水処理を図るため、幕別、札内の両地区を十勝川流域下水道で一括して処理を行う処理区統合事業を進めるほか、下水道ストックマネジメント修繕・改築計画に基づき、下水道施設の持続的な機能維持を図るための整備に取り組んでまいります。

個別排水処理事業につきましては、引き続き農村部などの生活排水処理対策として合併処理浄化槽の整備を進め、農村の生活環境の向上に努めてまいります。

農業集落排水事業につきましては、災害時の不測の事態にも適切に汚水処理を行うことができるよう施設の機能診断を行い、非常用発電機などの処理機能を維持するための施設整備の検討を進め、忠類地域における水質保全と生活環境の向上に努めてまいります。

V むすび

以上、第1回町議会定例会の開会に当たりまして、町政執行に臨む私の所信の一端を述べさせていただきました。

現在のコロナ禍にあつて、町政を取り巻く環境は、これまで以上に大きな変化を見せる中、機敏で柔軟な対応が迫られております。

本町の町章には、「幕」の文字で末広がりには伸びていく幕別を、「別」の文字で町民の

和を表すことにより、「町民の和を礎に発展していく町」という思いが込められております。

こうした変革の時代である今だからこそ、改めてこの町章に込められた思いを胸に、「みんながつながる 住まいるまくべつ」のもと、町政を担うリーダーとして、町民の皆さんと、ともに手を携えて、町民一丸となって、先人たちが築き、守り、受け継いできたこの幕別町が、夢や希望に満ち溢れた、輝かしい未来ある町となるよう、将来への確かな道筋をつけるべく、全力を尽くしてまいる決意であります。

議員の皆さん並びに町民の皆さんの、より一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。